

# 電子ブック選定の際考慮することから

## — 順天堂大学図書館での導入事例を通して —

城山 泰彦、水嶋 直子  
順天堂大学図書館

### I. 背景と目的

順天堂大学図書館（以下、当館）では、“電子書籍元年”と呼ばれた 2010 年に、医学系洋図書の電子ブックのタイトル数を増加させる取り組みを行った。

電子ブックには、冊子体図書にない利点が多くある。カスタマイズ機能や検索機能があり、ダウンロードや印刷が可能。そして学内 LAN 環境下では場所と時間を問わずに利用でき、契約次第で複数キャンパスでの利用も可能である。図書館にとっても、書庫スペースの節減や、閲覧対応や紛失処理等が不要などといった利点が挙げられる。

電子ブックの契約は、選書や契約条件等が、冊子体図書や雑誌の契約と異なった。本発表では、電子ブックの導入にあたり注意した点や、その後の運用事例を報告する。

### II. 方法・導入の経過

日本語の医学系電子ブックが少ないため、選書対象は英文の電子ブックに限った。予算内で最大限の効果を出したいため、出版社が展開するパッケージコレクションは対象とせず個別タイトルでの契約を目指した。必要度の高いタイトルの根拠として各講座に選書アンケートを依頼し、権威あるテキスト、学生図書、実用マニュアル等を推薦してもらった。偏りや選書漏れは、先方の許諾を得て「名古屋大学医学部推薦図書目録 2010」を参照して補正した。受入候補タイトルについて、冊子体図書の所蔵と価格、導入済電子ブックの提供有無、NACSIS Webcat 所蔵館数を調査した。そして代理店の協力を得て、電子ブックプラットフォームの提供有無・価格、機能、契約条件等を確認した。

### III. 結論と考察

購入希望タイトルのうち、電子化されているタイトルは予想以上に少ない結果となった。一方で電子ブックは提供されているものの、最新版が提供されていない、高額、出版社が定める購読条件を満たせないなど、契約に至らないタイトルもあった。経費の都合上、可能な限り買い切り型での契約を目指したが、一部で年間契約型を導入することとなった。アグリゲータ系等により複数のプラットフォームで提供されるタイトルは、利用者へのトライアル・アンケートを通して、主に操作性から契約先を選択した。

購入タイトル決定後に、企業買収により契約が難航したプラットフォームがあり、図らずも電子ブック市場自体が、まさに動いている状況を実感することとなった。今回の電子ブック導入の取り組みは、本学における電子ブック・コレクションの基礎となるものである。今後も継続的にタイトルを追加して、電子ブックがもたらすメリットを生かし、これからの図書館サービスのあり方を考えていきたい。